

はぐくみ会だより

第 32 号

平成23年11月15日

所蔵作品紹介

(31)



「ティアラ」 図案

(28cm×25cm)

小竹幸作 作

明治26年に半円の養殖真珠を作り出した御木本幸吉は、その真珠を用いた装身具の製作に際して、デザインの重要性を認識し、自らの店に図案部門を設けてデザイナーを次々に採用しました。

最初に招聘されたのは東京高等工業学校出身の淵江寛という人物で、図案主任として数々の業績を残しました。淵江は新人デザイナーの採用に際し、同窓で高岡工芸学校の教師をしていた加島英二に相談した結果、当時より多くの本校卒業生が御木本に採用され活躍しました。高岡工芸学校は図案を描くのに極細の面相筆を使い、この描写技法は御木本の伝統技法として伝えられています。御木本様式といわれるデザインには高岡工芸で培われた技能が生かされていると言えるでしょう。

表紙作者の小竹幸作は大正6年に本校図案科を卒業した後、同社図案部に入社。同9年には香淳皇后ご成婚の調度品製作に携わり、以来皇室御用達の品を数多く手がけ、昭和34年には美智子皇后陛下ご成婚の調度品一式も製作しました。

表紙の「ティアラ」も皇室献上品の一部としてデザインされたもので、昭和45年に旧高岡市立博物館で宝石デザイン展が開催された折に本校に寄贈されたものです。

(真珠博物館 館長 松月清郎氏
談話より一部引用)

同窓生ギャラリー

第64回

第4回夢散歩展

有志7名による「夢散歩展」も第4回展を迎え、絵画15点の他、写真、陶芸、巻物なども加わり多彩な展示となりました。

なかでも本郷正典氏の「電車シリーズ」2点は、ひしめきあって通勤する都会人の悲鳴が聞こえてくるような作品でした。豊本外良氏は氏の画風であるモノクロームで力強いタッチで描かれた「機械」、田村紀子氏はギリシャ、アンデスの遺跡に想を得た連作を、また、磯部俊彦氏の写真はノスタルジアを誘う新湊漁港風景などをプリンター機能を巧く使って表現されていました。草島誠一氏は、斬新な形で色彩豊かな陶芸作品を展示。異色の作品として、3〜4メートルの巻物に南画と詩を書かれた岡山寛氏の作品も飾られました。

期間中、ギャラリーで「夢と音を語る集い」のライブ演奏会や「山に遊び唱う集い」も開催され、来館者の皆さんには一味違った美術館を楽しんでいただきました。



▲恒例となった「山に遊び唱う集い」

平成23年4月16日(土)～5月8日(日)

第65回

いついろてん 五色展

日頃から創作活動に励んでいる伊勢直美、米納宗宏、米納睦子、小林灯朗観(ひろみ)、小林和佳奈さんら五人の個性溢れる作品約70点を展示しました。

伊勢さんの鉛筆で描かれた「子供シリィズ」は、愛らしい子供の表情を愛情溢れる眼差しと的確なデッサン力で描かれた秀逸な作品でした。彫刻家である米納宗宏さんは、柔和な表情の地藏像や不動尊像をテラコッタで制作。奥様の睦子さんは、童話の世界を和紙によるちぎり絵で温もりのある作品に仕上げられていました。小林灯朗観さんは、ガラス板やワイングラスの表面にダイヤモンド彫りを施し、花や羽化中のセミ、太陽のコロナなどを繊細に表現したガラス工芸作品を、娘さんの和佳奈さんは、ガラス小板を多数張り付け、切り口の面白さが際立つ抽象的な作品を展示されました。どれも女性らしい繊細な感性がうかがわれる作品でした。

また、東日本大震災の義援金を募るための絵はがきや小さい地藏像の販売も行われ、多くの方が募金に力をおられました。



▲伊勢直美さんの作品

平成23年5月15日(日)～6月5日(日)

第66回

高多玉雲作品展

「高多喜八(玉雲)作品展」の開催は、同窓生が本県並びに日本の美術史にいかにも足跡を残されたかを認識する良い機会となりました。

氏は明治38年本校図案科を卒業され、東京美術学校に進学。事情あって帰郷し、明治44年から大正6年まで本校で教鞭を執られました。その後、奈良、富山の工業試験場にて文化財修復に携わられた。デザインの研究、作家活動にも励まれ、初代富山専任場長を務められました。

戦中、戦後の混乱期には、将来を展望し、井波彫刻や高岡銅器のデザインを指導され、富山県の「美術文化協会」、「県展」設立にも大きな尽力をされています。

今回は、「親鸞聖人御絵伝」、「七高僧」などの軸装日本画、衝立「牡丹図絵」、藍染大皿、「富山県地図」、布絵「大工道具」、彫刻「胸像」など25点を展示いたしました。

多くの来館者があり、とりわけ氏の出身地である戸出西部金屋地区の方々には深く感銘を受けおられました。



▲戸出西部金屋の皆さん

平成23年6月11日(土)～7月3日(日)

常設展 I期

4月16日(土)～7月29日(金)

「絵画(油絵)・工芸(金工)」

I期の絵画は油絵を中心とし、藤森兼明氏の「ラピスのアイコン」他、松木英子氏のインドシリーズ3点、鶴谷登、宮脇谿、大村雅章、代谷松男各氏の作品を展示しました。

工芸では、明治期の高岡銅器の名工、中杉与三七による「林中花鳥花瓶」、「黄石公・長良図手焙」2点、金谷五郎三郎の「紫檀銅鬼耳付牡丹蝶象嵌花瓶」黄銅槌目割手付水差「緋銅糸目筒形瓶掛」3点他、加藤喜助、関沢卯市、熊谷勝明らの作品25点を展示しました。

7月12日に、藤森兼明氏が文化庁の「次世代を担う子どもたちの文化体験事業」の一環として講演と授業を行うために来校されました。

藤森氏は昭和29年本校図案絵画科を卒業され、現在、日本芸術院会員・日展常務理事として活躍されていますが、展示中の「ラピスのアイコン(平成6年・創立100周年記念寄贈)」をご覧になり、お嬢さんが二十歳になった記念にモデルとして制作されたとの説明がありました。

また、展示中の高岡銅器の巧みな技術に感嘆されておられました。



第67回

第4回 青湧会展



▲青湧会展示風景

洋画家の太田蒼久氏が中心となり平成2年に発足した「青湧会展」も今年で第4回展を迎えました。今回の出展者は、絵画(油絵・日本画・水墨画・水彩画・ちぎり絵)8名、写真4名、工芸(乾漆・陶芸・ブリザーブド・フラワー)4名の16名で、各自3点ずつの出品に加え、恩師である池上栄一先生の陶芸作品も賛助出品され、多彩な作品約50点が並びました。

なかでも太田氏のキャンバスとアクリル板の2枚重ねによる新しい試みの絵画作品や深山由紀子さんの斬新なブリザーブド・フラワーのオブジェ、また、林謙宗氏の写真は、詩情豊かな四季やニホンザルの親子の瞬時の表情を逃さずに迫った作品など、それぞれの個性溢れる作品に来館者も興味深く見入っておられました。

平成23年8月6日(土)~8月28日(日)

第68回

夢を追い続けてー 佐藤カオル子展



▲作品の前で披露されたフラダンス

佐藤カオル子さんは、デザイン科を昭和39年に卒業され、57年から洋画家林清納氏に師事し研鑽を積み重ねています。

今回、独立展や女流画家協会展などの入選作品を始め、所属の末広美術会のスケッチ旅行で訪れた奈良やベネチアの風景画を含め27点が展示されました。

大作は、孫の成長を愛情深い視点から描かれており、曲線を主体とした独特の構成と色使いは独創性に溢れ、子供の持つ不可思議な世界が大変印象深く表現されていました。

また、9月11日(日)の午後には、カレイ・アロハ・フラ・スタジオ(原田知佳氏主宰)8名の皆さんによるフラダンスも披露されるなど、展覧会を盛り上げ大変好評でした。

平成23年9月6日(火)~9月25日(日)

第69回

荒井仁一展

メタルアートの世界と仲間たち

荒井仁一氏は、高岡市関町の金属造形作家で、本校金属工芸科を昭和35年に卒業。永らく(株)不二越勤務の傍ら、55年に金工作家大角勲氏に師事し、60年には日本現代工芸美術展に入選されています。63年に日展に初入選され、以後18回入選、平成8年には県展大賞を受賞されました。現在、日展会友、現代工芸美術家協会本会員として活躍されています。

今回は金属板を裏からたたき鍛金の技術と彫金を併用し、機械をイメージした「MACHINEの譜(うた)」シリーズとして、初期から現在までの大作5点と小品3点を展示されました。作品は、ゴールド系の色調をメインに、主題をイメージさせる幾何的な構成要素が組み合わされたもので、大変気品のある作風でした。

また、奥様の昭美さんの染色作品や氏との合同作品、ご友人の今井智子さんの皮工芸、中西正さんの写真、野田江水さんの書も展示され華を添えました。



▲高橋高岡市長来館

平成23年9月28日(水)~10月16日(日)

常設展 II期

8月6日(土)~11月5日(土)

「絵画(日本画、肉筆絵手本、版画)・工芸(木彫)」

今回初展示した塩崎一郎(逸陵)作「肉筆絵手本11巻」は、氏が若かりし頃、素描力を付けるために伝来の絵巻物の模写や写生などを行った折の作品で、卷子仕立てにして在校生の教材用として寄贈されたものです。

作品は約百年を経過しており、破損が激しかったために表装を直し、前期に6巻、後期に5巻を展示しました。

氏は明治35年に本校の前身である県立工芸学校髹漆科(きゅうしつこ)で畑仙齡に日本画を学び、東京美術学校卒業後は10回の文展入選や日本美術協会改組に参画されました。本校美術館では氏の作品6点を収蔵しており、折に触れ展示しています。

また、工芸では大型木彫立像3体として、本校第1回の卒業生であり東京美術学校教授であった畑正吉の「出山釈迦像」、大正11年高見満制作による日本の女性美を追求した「黒髪裸婦」、また、昭和初期に文展へ出品された紺谷英儀のスポーツマン像「弦風」など12点を展示しました。



「文化部合同展2011」

7月6日(土)～7月29日(金)

文化部合同展は、前期の活動成果を発表する場として毎年一学期末に開催されています。

今年度は、美術部、陶芸部、デザイン研究同好会など芸術系8部、機械、電子機械、電気など工学系4部、さらに再編統合する二上工業高校最後の学年である3年生も参加し、約160点の作品を一堂に展示しました。



▲合同展初日の生徒達

陶芸部は花瓶や茶碗、デザイン研究同好会はイラストを中心とした作品を展示し、文化部系の生徒が多数訪れ互いの作品を鑑賞し合っていました。オープニングでは吹奏楽部のメドレー演奏も披露されるなど、生徒による和やかな展覧会となりました。

尚美展関連作品展「第104回尚美展を祝って」

10月20日(木)～11月5日(土)

伝統を誇る「尚美展」も一世紀を超えて連続で開催されていますが、今年も多くの皆様にご観覧いただきました。

催事の一环である「同窓生作品展」は、尚美展に先立つ10月20日から11月4日まで開催しました。



▲工芸作品を鑑賞する来館者

会場正面には、納富介次郎初代校長と青井記念館設立に多大な尽力をされた青井忠治氏の胸像を置き、中央に本校元教頭尾山常吉氏筆による「尚美」の軸を掛けました。

今回は大村雅章、佐藤カオル子、豊本外良各氏の洋画、道吉勝重、石崎登志雄、坂田三男、竹田貞郎、岩城大介各氏の日本画、荒井仁一、般若保、須賀真一各氏の銅鑄物作品、川原和夫氏の木彫レリーフ、寺腰健一氏の写真、布市信義氏の切り絵、柴田秀紀氏の篆刻など多彩な作品が並びました。

尚美展期間中、来館者約1500名が訪れ、本館での教職員、PTA作品と併せて鑑賞されていました。

平成23年度
寄贈作品紹介

◆長谷川総一郎作

(富山市在住)

彫刻「風」(横70×縦90cm)

本人寄贈



◆川原 和夫作 (砺波市在住)

木竹工「薫風」

(横48×縦69×厚さ2cm)

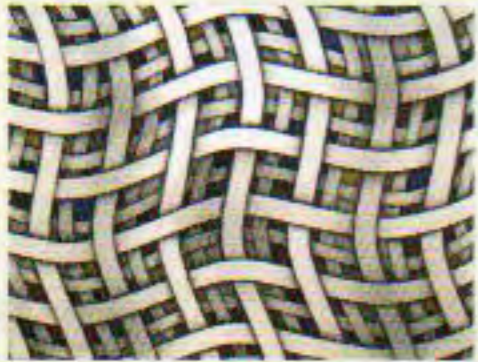
本人寄贈



◆鶴谷 登作 (故人)

油絵「格」No.4 (横148×縦114cm)

出町睦子氏寄贈
(高岡市在住)



はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みは日付から一年間会員となります。

主な活動

- ・青井記念館美術館への協力・支援
- ・中学生美術展(青井中美展)への支援

特典

- ・企画展等の案内
- ・はぐくみ会だよりの配布

年会費

- ・一般会員(個人) 二,〇〇〇円
- ・特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年度の同窓生ギャラリーは例年になく多くの開催が予定され、11月現在ですすでに6回展を数えました。それぞれのエネルギーが、ご来館の皆様に変好評であったことが印象的でした。同窓生による寄贈作品も増え、それらの常設展示と併せ、今後多くの同窓生による展覧会が開催されますよう、一層充実した美術館の運営に努めて参りたいと存じます。

〈中野 記〉

編集発行

富山県立高岡工業高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一-1-10
TEL (0766) 211-1630 (内線611)
FAX (0766) 211-1631